

サステナブルファイナンス時代の情報開示と企業価値 —企業価値向上をもたらす情報開示とは—

伊 藤 晴 祥 CMA

目 次

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. はじめに—サステナブルファイナンス時代 | 3. 先進事例 |
| 2. サステナブルファイナンスと企業価値 | 4. 終わりに—求められる情報開示とは |

本稿では、金利が低下した経済環境下でのサステナブルファイナンスの重要性について論じ、サステナビリティと企業価値の関係について整理する。また、先進事例から、あるべき情報開示について考察する。サステナビリティと企業価値の相関が正であるという研究は多いが、サステナビリティウォッシュが投資家や銀行に見抜かれていると報告している研究もある。真の意味でサステナビリティを追求し、そのことをKPIなどを設定して客観的に示し、サステナビリティと企業価値との関連性を明らかにする情報開示を行うことが企業価値を高めると考えられる。

1. はじめに—サステナブルファイナンス時代

サステナブルファイナンス時代は、Milton Friedmanが定義した、CSRのころから考えると環境、社会、ガバナンス（ESG）の要素を考慮した投資やファイナンス手法が目覚ましく発展している時代である。Friedmanは、1970年に、企業の社会的責任は利潤の最大化であるとしている。

ただし、法律に反したり相手をだましたりしなければと条件を付けている。サステナブルファイナンス時代は、法律を守っていればよいという消極的なものではなく、積極的に社会に貢献するためにはどうすればよいか、どのようなファイナンスの仕組みが有効であるかを考える時代である。各国でもサステナブルファイナンスに関するガイドラインや基準作りが進んでおり、多くの企業がSDGsを推進し、サステナブルな社会への貢献を



伊藤 晴祥（いとう はるよし）

青山学院大学大学院国際マネジメント研究科准教授、イトックス株式会社代表取締役。2004年3月青山学院大学国際政治経済学部卒業。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士および博士（政策・メディア）。ハワイ大学マノア校シャイドラー・カレッジ・オブ・ビジネス修士（金融工学）および博士（国際経営学）。国際大学講師、准教授を経て、2019年3月より現職。主な著作に“Managing Weather Risks: The Case of J. League Soccer Teams in Japan”（*Journal of Risk and Insurance*、2016年）、「SDGs債券の価格形成に関する分析と投資に際しての留意点—世界銀行のSDGs債券とEnel社のGeneral Purpose SDGs Linked Bondの事例分析—」（『証券アナリストジャーナル』、2020年）がある。